

生徒の皆さんの感想を以下に紹介します。

- 普段の生活では絶対に触れる機会のない土器に触れることだけでなく、その土器がどのように発掘されているのかまで知ることができて、すごく貴重な1時間になりました。教科書や資料集に載っている写真では推測できない重さや手触りなどの情報を、実際に触れることで得ることの大切さを改めて実感しました。こうした機会がなくても、自発的にそうしたことを行ってほしいなと思っています。
- 土器について、あまり詳しくは知らないので、お話を聞くことができ、とても興味深かったです。ましてや、発掘についても無知だったので、何年もかけて作業をしているということを知って、とても大変な作業なんだと思いました。また、実際に土器に触れたり観察したりすることで、普段の授業では感じられなかったこと、新たに気付いたことなどが、たくさんありました。ただ単に土器を作るのではなく、「自分たちの生活スタイルに合わせて土器が変化している」というのは、現代の私たちにも通じることです。時代は違っても、自分たちが生きていくうえでより合理的に物事を行ったり、より快適な生活を送ったりするために、自分たちで考えて暮らしているというのは、今も昔も同じなんだということに気付かされました。とても貴重な時間でした。
- 学校の近くに遺跡があって、出土品があるなど、自分たちの身近なところに歴史を感じることでできるものがあると驚きました。文献・書物とは違って、土器は何に使っていたのかわからないものもあり、その使い方を考えるのは楽しいと思いました。
- 土器に触れてもよい機会なんてないと思っていたので、本当に触れていいのかドキドキしました。でも、触ったからこそ分かった質感の違い、重さの違いなどを知ることができました。土器は見た感じよりも、実際に持ってみた方がずっと軽くて、古代人の技術力の高さを体感することができました。
- 様々な土器に実際に触れる機会はなかなか得られないので、とても楽しく興味深い授業でした。自分は考古学に関心があるので、今後の進路の参考にもなりました。



【授業の様子】

11月16日更新 「秋の特別公開2015」を開催しました。

調査研究課の橋本です。

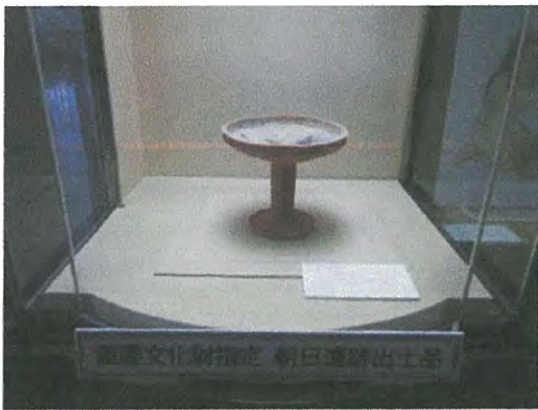
文化財保護強調週間(11月1日～7日)にあわせて、当センターでは10月30日(金曜日)から11月13日(金曜日)まで「秋の特別公開2015」を開催しました。

「秋の特別公開2015」では、国指定重要文化財である朝日遺跡出土品の中から、赤彩土器の高杯(たかつき)やコップ状の杯部をもつ小型の高杯など様々な形の高杯を特別に展示したほか、豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に関連する発掘調査での出土品も展示しました。

館内では、(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターのご協力のもと常設展示・企画展示も行われており、来館者の皆さんは、これらの展示もたいへん興味深く見学されていました。

また、10月31日(土曜日)と11月1日(日曜日)には拓本体験講座を実施し、多くの方にご参加いただきました。実物の土器を手にして、拓本を探るのは初めての方がほとんどでした。拓本体験を楽しみながら、埋蔵文化財への理解が深まる一日としていただけたのではないのでしょうか。

ご来館ありがとうございました。



【朝日遺跡出土品(国指定重要文化財)】



【(左)見学の様子 (右)拓本体験講座】

10月30日更新 「平成27年度豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業 発掘調査成果報告会・展示会」を開催しました。

調査研究課の橋本です。

10月24日(土曜日)、豊田市生涯学習センター下山交流館にて「平成27年度豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業 発掘調査成果報告会・展示会」を開催しました。今回は、今年の5月から8月にかけて調査を行った菅ノロA遺跡についての成果報告と、現在進めている整理作業の一部について紹介しました。

菅ノロA遺跡からは、縄文時代の土坑や陥穴(おとしあな)、古代から中世の自然流路・溝・土坑・鍛冶炉(かじろ)などの遺構を検出するとともに、縄文土器や石鏃(せきぞく)、古代の灰胎陶器(かいゆうとうき)・緑釉陶器(りよくゆうとうき)、中世の山茶碗・土師質土器(はじしつどき)などの遺物が出土しています。今回の調査では、下山地区での昔の人々の生活のありようを考察するための貴重な資料を得ることができました。

なお、当日の午後は拓本体験講座を実施しました。「拓本は初めて」という方が多かったのですが、みなさん熱心に取り組まれ、一つ一つが素晴らしい出来映えのものとなりました。完成した拓本はラミネート加工を施し、記念のしおりとしてお持ち帰りいただきました。また、パズルコーナーでは、下山で出土した「春」の字が記された墨書土器等を題材としたジグソーパズルにチャレンジしてもらいました。

多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。



【成果報告会の様子】



【成果品の展示】



【拓本体験講座】



【パズルコーナー】

10月29日更新 愛知県史編さん事業に関連して、当センターで収蔵・保管している資料の写真撮影が行われました。

調査研究課の構本です。

10月22日(木曜日)、愛知県史編さん委員会考古部会並びに愛知県総務部法務文書課県史編さん室から担当者が来館され、当センターで収蔵・保管している資料の写真撮影が行われました。

今回撮影されたのは、清洲城下町遺跡(清須市)出土の碗類・皿類等をはじめ、名古屋城三の丸遺跡(名古屋市)出土の京焼風大鉢、上品野西金地遺跡(瀬戸市)出土の茶壺(祖母懐茶壺)、羽根遺跡(豊川市)出土の石塔類などです。

県史編さん事業は、「愛知県の原始・古代から現代に至る歴史的發展過程を明らかにし、県民のふるさと愛知に対する理解を深めるとともに、多くの貴重な資料を県民共通の財産として後世に残し、県の学術及び文化の振興に資すること。」を目的に進められています。当センターが収蔵・管理する資料は、まさに県民共通の財産であり、これらの資料が有効活用され、県民の皆さまの埋蔵文化財に関する理解が深まることにつながれば幸いです。

なお、当センターでは、平日(月～金)の午前9時から午後4時まで、資料管理閲覧室等で収蔵資料の一部を公開しています。皆さまのご来館をお待ちしております。





【写真撮影の様子】



【上品野西金地遺跡出土品】

10月29日更新 愛知県公平委員会連合会の皆さまが施設を見学しました。

10月16日(金曜日)、愛知県公平委員会連合会の一行、58名の方が調査センターの施設を見学しました。

これに先立ち、調査センターの隣にある弥富市総合社会教育センター中央公民館のホールにおいて、調査研究課長の佐藤が「愛知県の埋蔵文化財の現状と今後」という演題で、朝日遺跡をはじめとする愛知県内の著名な遺跡の紹介等を行いました。

講演の後に、調査センターに移動し2階と1階の展示を中心に施設の見学を行いました。遺物を見るだけでなく、2階の展示室では、遺跡から出土した土器と復元した土器を手に取り、古代の土器造りの技術の高さを体感してもらいました。

愛知県埋蔵文化財調査センターでは、一年を通して見学者の受け入れを行っています。団体見学などで職員による説明を希望される場合は、あらかじめご連絡ください。その他、研究のための資料調査、図書室の利用にも対応していますので、ご希望の方は下記までお問合せください。

【お問合せ先】

愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課

電話番号 0567-67-4164(平日 午前9時から午後5時まで)



【講演会の様子】





【施設見学の様子】

「シニアと学校を結ぶセカンドライフ塾」の方々が施設を見学しました。

愛知県埋蔵文化財調査センター(以下、調査センターと略)では、県内外の方々に施設を公開しています。

その一環として9月8日(火曜日)に豊山町教育委員会が主催する「シニアと学校を結ぶセカンドライフ塾(愛知県シニア地域デビューモデル事業)」に参加している方々、22名と付添の教育委員会の職員の方3名が調査センターの施設に來訪されました。

はじめに、所長からの挨拶があり、調査センターの業務について簡単な説明と10月末から11月初めに調査センターで行われる「秋の特別公開」(10/30～11/13)についての紹介がありました。



所長挨拶

その後、2階の資料閲覧室、収蔵庫Cの展示を見学し、展示品の解説を職員が行いました。特に収蔵庫Cの展示では、昨年度、設楽ダム関連調査や下山テストコース関連調査で出土した土器を職員が解説するのを聴き入り、山間部から多くの遺跡が発見され、多様な遺物が出土していることに驚かされていました。



職員による展示解説

次に、研修室で埋蔵文化財の発掘調査までの流れや豊山町やその周辺市の埋蔵文化財の概要について説明を行いました。その中で特に豊山町に所在する青塚古墳の話を中心に聴き入り、自分たちの町にある古墳について強く関心をもたれたようです。

最後には、職員から遺物の取り扱いについて注意を受けた後に、池下古墳などから出土した埴輪や須恵器などの古墳時代の遺物を間近に見て実際に触れてもらいました。実際に遺物を手にした方々に、埴輪の質感や古墳時代の壺の器壁の薄さを直に感じてもらいました。



出土遺物に触れる豊山町の方々

一時間半の短い訪問でしたが、参加された方々は埋蔵文化財により深い関心を抱いて調査センターを後にされました。